

《事例記載シート》

項目名

保育のねらい・意図

子どもの姿

心掛けたこと

保育の経緯

考察

保育の様子（写真添付）

《事例記載シート》(案)

項目名	遊びの中で育む
内容	障がい児保育
保育のねらい・意図	ダウン症のAちゃん（入園：〇歳〇か月・〇歳児クラス、〇月〇日現在：〇歳〇か月・〇歳児クラス在籍）は入園当初から言葉でのコミュニケーションが難しい子どもでした。就学に向けて、どうやって発語を促すための援助が出来るか、職員全員で考えていくことにしました。
子どもの姿	Aちゃんは、相手に意思を伝えるための手立ては、ジェスチャーや少しの単語、返事だけのやり取りだけでした。口を動かすことを日々訓練としてやっていたことで、Aちゃんは嫌になってしまっていました。  <p>うん。</p> <p>Aちゃん、一緒に遊ぼう。何して遊ぶ？</p> <p>遊びの中で口を動かしたり言葉を発したりする機会を増やそう！</p>
心掛けたこと	保育園の職員全員が、Aちゃんに対して積極的に声掛けをすることにしました。クラス内では、Aちゃんの好きな遊びを提供して、自然に言葉が出るようにしました。特に、食事に関しては、保育士も一緒に「モグモグモグ。」と言いながら口を動かして見せ、一緒に口を動かすことを意識させました。
保育の経緯	食事が大好きなAちゃんでしたので、保育士と一緒に食事を取り、一緒に「モグモグモグ。」と言いながら食べることで、食事の時間がますます楽しみになって来た様子が見られるようになりました。口を動かすことが「訓練」ではなく、「あそび」となったことで、口の運動が楽しく自然に出来るようになりました。その結果、以前より口の動きがスムーズになり、自発的に動かそうとする姿が多く見られるようになりました。言葉の数も増え、簡単な会話もできるようになりました。自分の気持ちを分かってもらえることをとても喜び、毎日楽しく園生活を送っています。
考察	子どもにとって、何が苦痛で何が楽しい事なのか、子どもの立場になって考えることが大切です。どんなことでも楽しいことに変えて行く工夫はあるはずです。 <u>訓練ではなく、遊びとして</u> 日々の保育に取り入れていく大切さをAちゃんから教えてもらったように思います。 
保育の様子（写真添付）	  